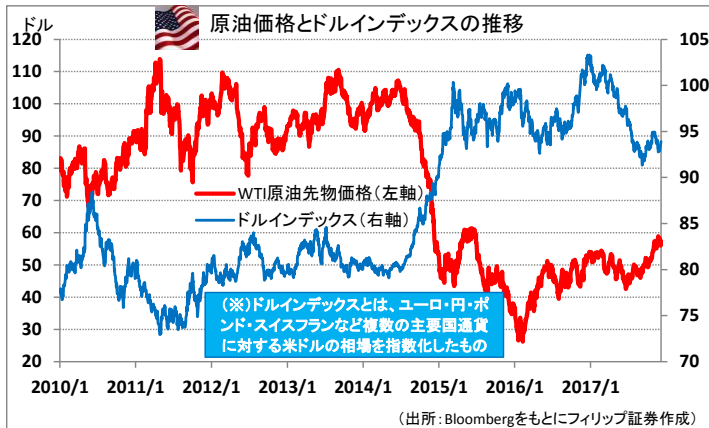
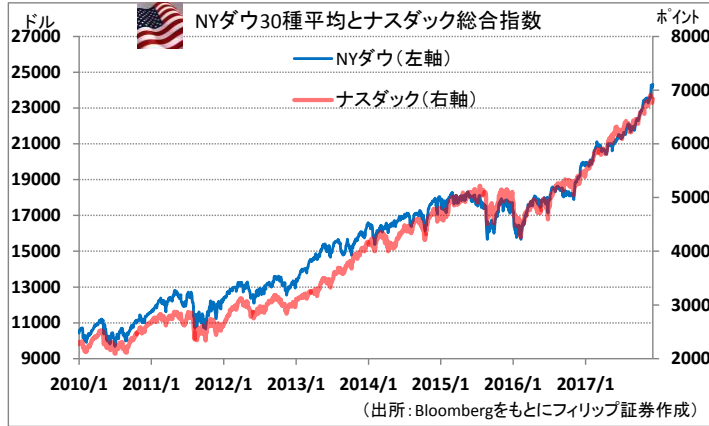


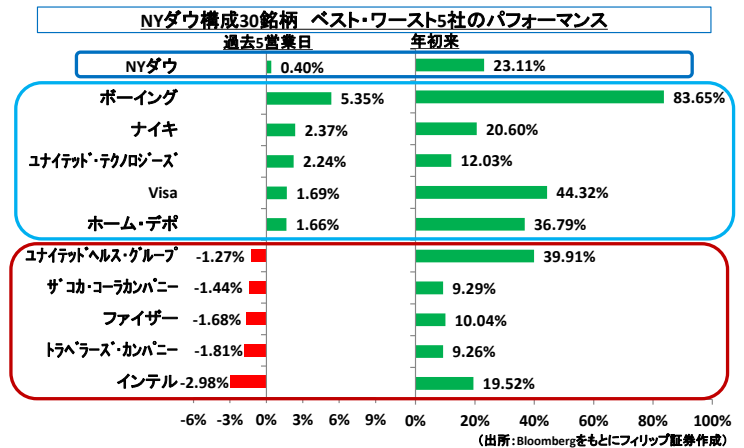
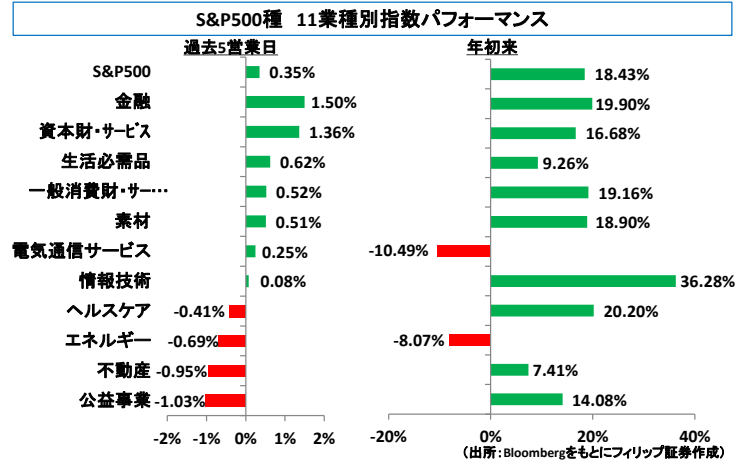
Report type: ウィークリーストラテジー



“堅調地合いも FOMC 待ちの展開か？”

- 12/8、トランプ大統領は12/22までの連邦政府の支出を手当てる暫定予算案に署名し、政府期間の閉鎖が回避された。最近の税制改革の議論の前進や同日に発表された11月分の雇用統計が総じて市場予想程度と12月の追加利上げがほぼ確実視される状況となり、株式市場に楽観的な見方が強まった。
- 11月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比22.8万人増と市場予想の同19.5万人増を大きく上回り、失業率は4.1%と市場予想通りと前月から横ばい。ただ、労働市場の逼迫も過熱感あまり感じられず、賃金上昇余地が想定される結果となった。11月の平均時給は前年同月比2.5%増と市場予想の同2.7%増を下回り、労働市場に未だスラック(たるみ)が残っている模様で、100か月を超えた景気拡大局面は今後も続く可能性があろう。米国も景気拡大で労働市場は引き締まっており、職探しをあきらめた人や就業機会があれば働く意欲のある人を含む広義の失業率は、賃金が大きく伸びていた前回のリセッション後で最低の水準にある。2018年以降、賃金だけでなく物価上昇にも波及する可能性があり、株価のサポート要因になると見ている。ただ、景気の一段の加速は、2018年の利上げペース加速要因となる可能性もあり動向を注視したい。
- FRB はトランプ政権の経済政策を前提としていないが、①実質減税の税制改革法案化、②来年1月とも言われる公約のインフラ投資計画の打ち出し、などが見込まれ、個人や法人の良好なマインドが続き、企業収益の拡大も続く公算が高い。賃金や物価上昇圧力が高まり、株価をはじめとした資産価格が軒並み上昇となれば、FRBの想定以上に景気が強まる可能性もあろう。
- 12/12-13の FOMC では、任期最後となるイエレン FRB 議長のコメントに注目したい(日本時間12/14午前4時)。バトンを引き継ぐパウエル次期議長についての言及の可能性もあろう。利上げペース、賃金、物価や成長率見通しなどのコメントに耳を傾けたい。FOMC を前にドルは上昇基調にあり、株式市場は様子見姿勢が強まる展開も予想される。乱高下が続くビットコインは、12/10よりCBOE(シカゴ・オプション取引所)で取引が開始され、12/18には CME(シカゴ・マーカンタイル取引所)で先物市場が開設される。一部大量保有者の動向次第では価格急変動も想定され、金融市場への影響には注視したい。(庵原)
- 12/12号では**ブロードコム(AVGO)**、**キャピラー(CAT)**、**フェデックス(FDX)**、**JP モルガン・チェース・アンド・カンパニー(JPM)**、**ロイヤル・カリビアン・クルーズ(RCL)**、**ピザ(V)**を取り上げた。

■S&P500 業種別および NY ダウ構成銘柄の騰落率(12/8 現在)



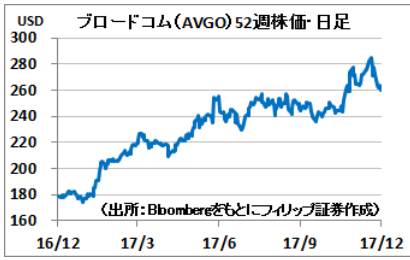
■主な企業決算の予定

- 14日(木): オラクル、アドビ

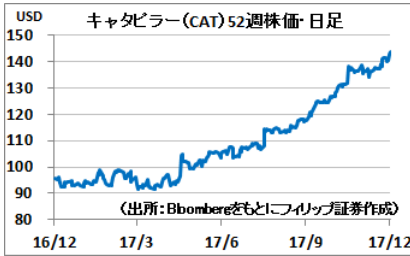
■主要イベントの予定

- 12日(火):
 - ・FOMC(13日まで)
 - ・11月の生産者物価指数
 - ・11月の財政収支
 - 13日(水):
 - ・FOMC 声明発表、経済予測とイエレン FRB 議長記者会見
 - ・11月の消費者物価指数
 - ・OPEC 月報
 - ・ユーロ圏 10月の鉱工業生産
 - ・英首相、党首討論
 - ・韓国大統領、訪中(16日まで)
 - 14日(木):
 - ・12月9日終了週の週間新規失業保険申請件数
 - ・11月の輸入物価指数
 - ・11月の小売売上高
 - ・10月の企業在庫
 - ・IEA 月報
 - ・EU 首脳会議(15日まで)
 - ・ユーロ圏 12月のサービス業・製造業・総合 PMI(速報値)
 - ・ECB 金融政策決定、ドラギ総裁が記者会見
 - ・中国 11月の小売売上高、工業生産、固定資産投資
 - 15日(金):
 - ・12月のニューヨーク連銀製造業景況指数
 - ・11月の鉱工業生産
 - ・映画「スター・ウォーズ/最後のジェダイ」公開
- (Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

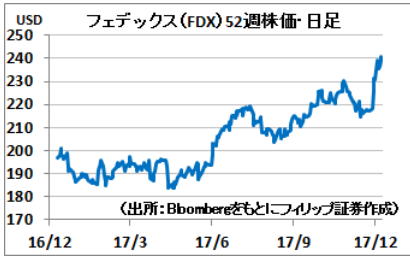
■ 銘柄ピックアップ



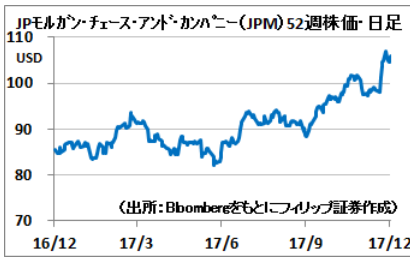
◇ **ブロードコム(AVGO)・・・2018/2/27に2018/10期1Q(11-1月)の決算発表を予定**
 ・1961年設立のブロードコムを半導体大手のアバゴ・テクノロジーが2016年に買収し、社名はブロードコムに変更。無線およびブロードバンド通信向け半導体製品などを製造販売する。
 ・2017/10期4Q(8-10月)は、売上高が前年同期比17.1%増の48.44億 USD、純利益が6.71億 USD と前年同期▲6.68億 USD から黒字転換した。調整後 EPS は4.59USD と市場予想の4.52USD を上回った。iPhone 向けの出荷が増えたほか、データセンター向けの販売も好調。
 ・2018/10期1Q(11-1月)の会社計画は、売上高が52.21-53.71億 USD、売上高粗利益率が46.75-48.75%である。2018/10通期市場予想は、売上高が前期比18.0%増の208.14億 USD、当期利益が同98.2%増の35.59億 USD である。同社はクアルコム取締役会長の社外取締役候補者11人を指名。テクノロジー業界で史上最大規模となる買収の実現を目指す。(増測)



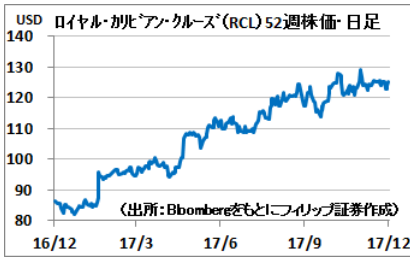
◇ **キャタピラー(CAT)・・・2018/1/24に2017/12期4Q(10-12月)の決算発表を予定**
 ・1925年に設立。産業用ガスタービンエンジン分野で世界最大手のメーカー。建設、鉱業、農業、林業向け機械の設計・製造・販売を行うほか、エンジンや部品も製造する。
 ・2017/12期3Q(7-9月)は、売上高が前年同期比24.6%増の114.13億 USD、純利益が同3.7倍の10.59億 USD であった。調整後 EPS は1.95USD で、市場予想の1.24USD を上回った。
 ・2017/12通期の会社計画を上方修正。売上高が440億 USD(従来計画420-440億 USD)、調整後 EPS が6.25USD(同5.00USD)となった。また、リストラ費用を13億 USD(同12億 USD)見込んでいる。2017/12通期の市場予想は、売上高が前期比15.1%増の443.46億 USD、当期利益が29.24億 USD と前期の▲0.67億 USD から黒字転換する見通しである。(増測)



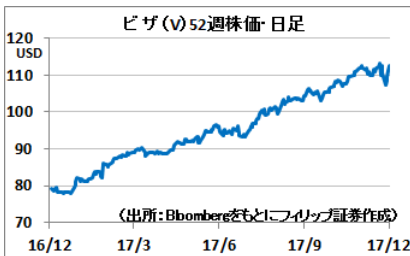
◇ **フェデックス(FDX)・・・2017/12/19に2018/5期2Q(9-11月)の決算発表を予定**
 ・1971年創業。世界の法人・個人顧客向け輸送サービスを世界220以上の国と地域で提供。フェデックスエクスプレスは空と陸のネットワーク活用で、1-2営業日以内の貨物輸送を行う。
 ・2018/5期1Q(6-8月)は、売上高が前年同期比4.3%増の152.97億 USD、純利益は同16.6%減の5.96億 USD だった。調整後 EPS は2.51USD と市場予想の3.00USD を下回った。サイバー攻撃によるシステム不調で生じた集荷・配送の遅れやハリケーンの被害が足かせとなった。
 ・2018/5通期会社計画は、特別項目を除くベースの EPS が12.00-12.80 USD である。2017/12通期の市場予想は、売上高が前期比4.6%増の631.01億 USD、当期利益が同5.0%増の31.47億 USD である。11/27のサイバーマンデーは、一日のオンライン売上高が前年比16.8%増の65.9億 USD と過去最高。年末商戦に伴う貨物取扱量の増加を期待したい。(増測)



◇ **JP モルガン・チェース・アンド・カンパニー(JPM)・・・2018/1/11に2017/12期4Q(10-12月)発表予定**
 ・1799年に設立した商業・投資銀行を運営する老舗の銀行グループ。投資銀行、トレジャリーサービス、証券、資産管理、商業銀行、住宅金融などのサービスを提供している。
 ・2017/12期3Q(7-9月)は、営業収益が前年同期比2.7%増の262.00億 USD、純利益が同7.1%増の67.32億 USD であった。EPS は1.76USD と市場予想の1.65USD を上回った。
 ・2017/12通期市場予想は、営業収益が前期比8.3%増の1,035.63億 USD、当期利益が同0.2%減の246.82億 USD である。FRB の次期議長のパウエル理事は、現イエレン FRB 議長の緩やかな利上げ路線を踏襲すると見られ、金利上昇による利鞘の拡大が期待される。(増測)



◇ **ロイヤル・カリビアン・クルーズズ(RCL)・・・2018/1/24に2017/12期4Q(10-12月)の決算発表を予定**
 ・1968年設立の世界最大規模の客船会社。大衆向けから豪華客船まで、幅広い価格帯のクルーズ・パッケージを提供。カリブ海を中心にアラスカ、ヨーロッパなどに就航エリアを展開。
 ・2017/12期3Q(7-9月)は、売上高が前年同期比0.2%増の25.69億 USD、純利益が同8.6%増の7.52億 USD であった。EPS は3.49USD と市場予想の3.32USD を上回った。旺盛な需要を受け中国、欧州、米国向けに旅客1人に対する距離当たりの収入であるイールドが上昇した。
 ・2017/12通期会社計画は、EPS がハリケーンの影響による下押し0.26USD を含め7.35-7.40USD。2017/12通期市場予想は、売上高が前期比2.9%増の87.42億 USD、当期利益が同24.2%増の15.94億 USD である。同社は2018年に新造船2隻の就航を予定している。(増測)



◇ **ビザ(V)・・・2018/2/1に2018/9期1Q(10-12月)の決算発表を予定**
 ・2007年設立の電子決済テクノロジー企業。1958年にバンク・オブ・アメリカの発行したクレジットカード「BankAmericard」に起源を持つ。クレジットカードやデビットカードの他、電子決済ネットワークや ATM 決済サービスなどを提供する。200以上の国と地域で事業を展開する。
 ・2017/9期4Q(7-9月)は売上高に当たる営業収益は前年同期比13.9%増の48.55億 USD、純利益は同10.8%増の21.40億 USD となった。EPS は0.90と、市場予想の0.84USD を上回った。
 ・2018/9通期の会社計画では、営業収益の増加率が前期比1桁台後半、EPS の増加率は最大で10%台半ばとなる見通し。2018/9通期の市場予想は営業収益が前期比9.5%増の201.07億 USD、当期利益は同40.5%増の94.14億 USD。同社はバーンスタイン社のレポートで、トランプ政権による税制改革からの恩恵が大きい企業として取り上げられた。(増測)

(※)決算発表の予定は12/8現在であり、変更される可能性があります。



フィリップ証券株式会社

Member of PhillipCapital Group

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第127号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

【留意事項】

- 上場有価証券等のお取引の手数料は、国内株式の場合は約定代金に対して上限1.242%(消費税込)(ただし、最低手数料2,160円(消費税込)、外国取引の場合は円換算後の現地約定代金(円換算後の現地約定代金とは、現地における約定代金を当社が定める適用為替レートにより円に換算した金額をいいます。)の最大1.08%(消費税込)(ただし、対面販売の場合、3,240円に満たない場合は3,240円、コールセンターの場合、1,944円に満たない場合は1,944円)となります。
- 上場有価証券等は、株式相場、金利水準等の変動による市場リスク、発行者等の業務や財産の状況等に变化が生じた場合の信用リスク、外国証券である場合には為替変動リスク等により損失が生じるおそれがあります。また新株予約権等が付された金融商品については、これらの権利を行使できる期間の制限等があります。
- 国内金融商品取引所もしくは店頭市場への上場が行われず、また国内において公募、売出しが行われていない外国株式等については、我が国の金融商品取引法に基づいた発行者による企業内容の開示は行われていません。
- 金融商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、お取引に際しては、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書又はお客様向け資料をよくお読みください。

【免責事項】

- この資料は、フィリップ証券株式会社(以下、「フィリップ証券」といいます。)が作成したものです。
- 実際の投資にあたっては、お客様ご自身の責任と判断においてお願いいたします。
- この資料に記載する情報は、フィリップ証券の内部で作成したか、フィリップ証券が正確且つ信頼しうると判断した情報源から入手しておりますが、その正確性又は完全性を保証したものではありません。当該情報は作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。この資料に記載する内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- この資料を入手された方は、フィリップ証券の事前の同意なく、全体または一部を複製したり、他に配布したりしないようお願いいたします。

WEB